

平成17年福岡県内の犯罪概況

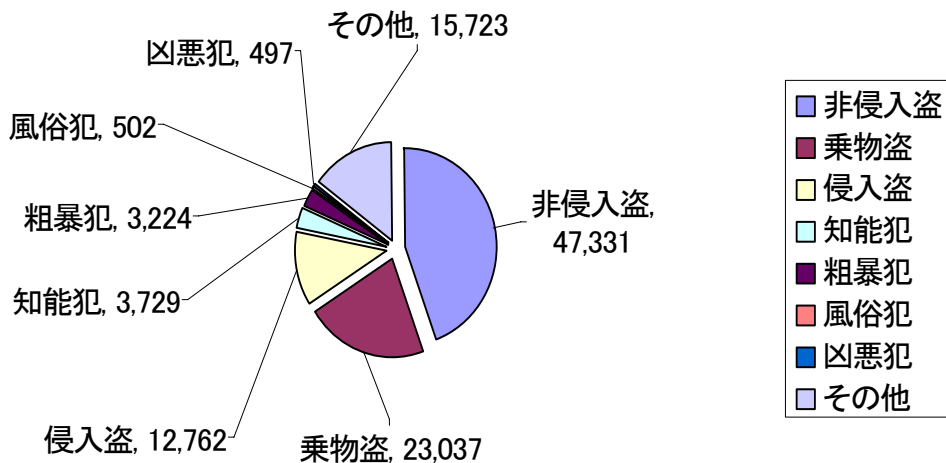
1 刑法犯の発生状況

(1) 概況

平成17年中に発生した刑法犯の件数は、106,805件で、平成16年に比べ、21,740件(16.9%)減少し、過去最高を記録した平成14年に比べ61,385件(36.5%)と大幅に減少し、3年連続の減少となり、平成4年以来13年振りに10万件台となった。

包括罪種別の内訳は、第1図及び第1表のとおり、窃盗犯が83,130件で全体の77.8%を占め、知能犯が3,729件(3.5%)でこれに次ぎ、以下、粗暴犯3,224件(3.0%)、風俗犯502件(0.5%)、凶悪犯497件(0.5%)となっている。

第1図 刑法犯包括罪別発生件数



第1表 刑法犯包括罪別発生件数

包括罪種	平成17		平成16		増減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	率(%)
総数	106,805	100	128,545	100	-21,720	-16.9
凶悪犯	497	0.5	540	0.4	-43	-8
粗暴犯	3,224	3	3,477	2.7	-253	-7.3
窃盗犯	83,130	77.8	102,765	80	-19,635	-19.1
うち侵入盗	12,762	11.9	16,076	12.5	-3,314	-20.6
うち乗物盗	23,037	21.6	24,895	19.4	-1,858	-7.5
うち非侵入盗	47,331	44.3	61,794	48.1	-14,463	-23.4
知能犯	3,729	3.5	3,770	2.9	-41	-1.1
風俗犯	502	0.5	529	0.4	-27	-5.1
その他	15,723	14.7	17,464	13.6	-1,741	-10

※ 凶悪犯とは、殺人・強盗・放火・強姦の罪種を示す。

※ 粗暴犯とは、暴行・傷害・傷害致死・脅迫・恐喝の罪種を示す。

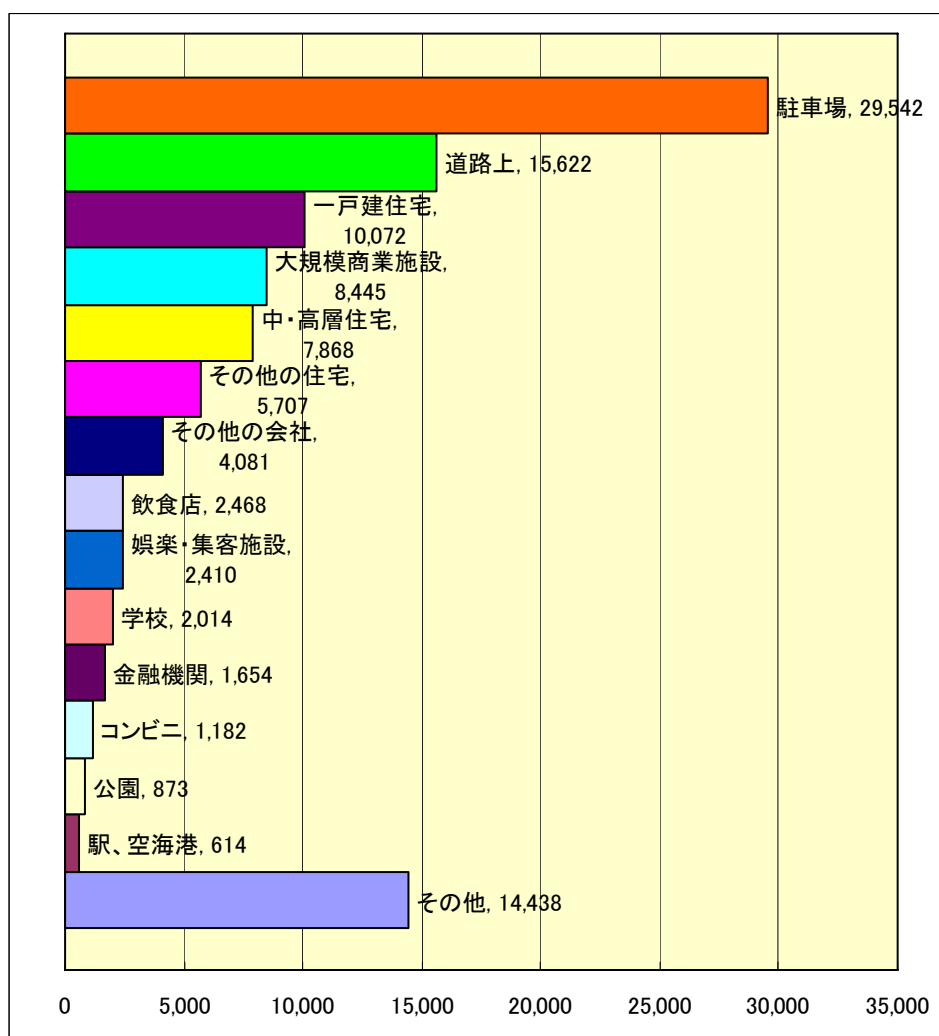
(2) 刑法犯の場所別発生件数

平成17年中に発生した刑法犯の発生件数を場所別に分類したところ、第2図のとおり、もっとも発生件数が多いのは、駐車場の29,542件でこれに次ぎ、以下、道路15,622件、一戸建住宅10,072件、大規模商業施設8,445件の順となっている。

駐車場では、主に乗り物盗(約37%)、車上狙い(約31%)などが多発している。罪種別にみると、第2表のとおり、窃盗犯では、概ね発生場所と同様に駐車場(約30%)、道路(11%)が多いが、凶悪犯では道路(約20%)、中・高層住宅(約12%)、その他の住宅(約10%)の順などとなっている。

特徴的傾向として、コンビニエンスストアに対する強盗事件、中・高層住宅でのわいせつ事件、学校での器物損壊事件の発生が目立つ。

第2図 刑法犯場所別発生件数



第2表 刑法犯場所別発生件数

	凶悪犯	粗暴犯	乗り物 盗	車上狙い	強わい	器物損 壊	その他
駐車場	42	344	11,052	9,282	23	2,093	6,706
道路上	102	1,131	3,341	2,156	166	595	8,131
一戸建住宅	39	229	1,550	738	18	611	6,887
大規模商業施設	21	104	514	445	2	116	7,243
中・高層住宅	62	225	2,680	926	103	707	3,165
その他の住宅	49	158	1,283	389	33	360	3,435
その他の会社	10	87	203	137	4	218	3,422
飲食店	20	190	110	146	1	128	1,873
娯楽・集客施設	7	121	219	175	7	114	1,767
学校	1	62	432	138	4	506	871
金融機 関	8	13	13	5	0	12	1,603
コンビニ	37	64	147	67	2	44	821
公園	12	101	98	45	13	66	538
駅・空港	5	45	173	4	1	56	330